

柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

1998年度

1999年3月

柏原市教育委員会

はしがき

柏原市は、河内平野の南東部に位置し、市域のおよそ3分の2が山地や丘陵で占め、その間を縫って石川や大和川が流れる府下でも有数の風光明媚な緑が多い町です。生駒山の山麓部に残る古代縄文、弥生時代の集落遺跡にはじまり、全国的に有名な古墳も多く築造されており、柏原市の歴史的な内容には目をみはるものがあります。

今回の個人住宅建設に伴う事前の発掘調査からも又、新たな柏原市の歴史を埋める研究資料が出土しました。多方面の方々にご活用頂ければ幸いに存じます。

最後に、調査及び報告書作成にあたり、関係各位にご理解とご協力を頂いた事を感謝すると共に今後とも埋蔵文化財の調査にご理解とご協力賜りますようお願い申し上げます。

平成11年3月

柏原市教育委員会

教育長 舟橋清光

例　　言

1. 本書は、平成10年度に柏原市教育委員会が国庫補助事業（総額1,600,000円、国補助率50%、府補助率25%、市負担率25%）として計画し、社会教育課文化係が実施した柏原市内遺跡群緊急発掘調査概要報告書である。
2. 発掘調査は、柏原市教育委員会社会教育課文化係北野 重、安村俊史を担当者とし、平成10年4月1日から平成11年3月31日に終了した。
3. 本書には、平成10年1月19日から同年10月9日までに着手した土木工事に伴う事前発掘調査の内9件の概要とその他の調査の一覧を掲載した。なお、この期間内に文化財保護法第57条－2および3に基づく届出・通知がなされたものは310件、その中で発掘調査を実施したものは38件、国庫補助として実施したものは16件である。
4. 本書の編集は、北野が行い、執筆は北野、遺物は阪口文子が担当した。
5. 調査整理の参加者は下記のとおりである。

橋谷和夫	柳谷好子	長西茂樹	川端 隆	安村俊史
石田成年	寺川 欽	谷口京子	奥野 清	谷口鉄次
分才隆司	阪口文子	楳原美智子	谷川洋史	尾野絹江
富田郁子	乃一敏恵	有江マスミ	村口ゆき子	松本和子
山元允子	橋口紀子			

目 次

1998年度柏原市内遺跡群発掘調査一覧

第1章 船橋廃寺	1
98-1次調査	2
第2章 大県遺跡	3
98-1次調査	4
98-5次調査	5
98-6次調査	6
第3章 大県南遺跡	7
98-2次調査	8
第4章 平尾山古墳群	9
98-2次調査	10
第5章 田辺遺跡	11
98-4次調査	12
98-5次調査	13
98-6次調査	14

報告書抄録

挿 図 目 次

図-1 船橋廃寺調査対象地位置図	1
図-2 船橋廃寺98-1次調査調査区位置図	2
図-3 船橋廃寺98-1次調査平面図・断面図	2
図-4 船橋廃寺98-1次調査出土遺物	2
図-5 大県廃寺調査対象地位置図	3
図-6 大県遺跡98-1次調査調査区位置図	4
図-7 大県遺跡98-1次調査平面図・断面図	4
図-8 大県遺跡98-5次調査調査区位置図	5
図-9 大県遺跡98-5次調査平面図・断面図	5
図-10 大県遺跡98-6次調査調査区位置図	6
図-11 大県遺跡98-6次調査平面図・断面図	6

図-12	大県南遺跡調査対象地位置図	7
図-13	大県南遺跡98-2次調査調査区位置図	8
図-14	大県南遺跡98-2次調査平面図・断面図	8
図-15	平尾山古墳群調査対象地位置図	9
図-16	平尾山古墳群98-2次調査調査区位置図	10
図-17	平尾山古墳群98-2次調査平面図・断面図	10
図-18	田辺遺跡調査対象地位置図	11
図-19	田辺遺跡98-4次調査調査区位置図	12
図-20	田辺遺跡98-4次調査平面図・断面図	12
図-21	田辺遺跡98-5次調査調査区位置図	13
図-22	田辺遺跡98-5次調査平面図・断面図	13
図-23	田辺遺跡98-6次調査調査区位置図	14
図-24	田辺遺跡98-6次調査平面図・断面図	15
図-25	田辺遺跡98-6次調査出土遺物土師器	16
図-26	田辺遺跡98-6次調査出土遺物須恵器	17

図 版 目 次

- 図版-1 船橋遺跡98-1次調査（全景、土層断面）
- 図版-2 船橋遺跡98-1次調査（墨書き土器、平瓦）
- 図版-3 大県遺跡98-1次調査（調査前、土層断面）
- 図版-4 大県遺跡98-5次（全景、全景）
- 図版-5 大県遺跡98-6次調査（全景、全景）
- 図版-6 大県南遺跡98-2次（全景、全景）
- 図版-7 平尾山古墳群98-2次（全景、土層断面）
- 図版-8 田辺遺跡98-4次（全景、土層断面）
- 図版-9 田辺遺跡98-4次（ガラス溶解炉壁、ガラス滓）
- 図版-10 田辺遺跡98-5次調査（全景、土層断面）
- 図版-11 田辺遺跡98-6次調査（全景、全景）
- 図版-12 田辺遺跡98-6次調査（遺物出土状況、溝完掘全景）
- 図版-13 田辺遺跡98-6次調査（須恵器、土師器）

1998年度柏原市内遺跡群発掘調査一覧表

遺跡名	番号	所 在 地	対 象 種	申 請 者	用 途	担当	着手日	終了日	備 考
北山 古墳群	98-1	西分東条町3701他	15,000.00	土壠開發公社	7棟宅地造成	安村	980105	980209	8×23、10×55mを複数、ピット、土坑を検出し、土器類等出土
大 県	98-1	平野2丁目15-26の一部	163.92	大野 桂	個人住宅	北野	980119	980119	本 喬 掘 裁
平尾山 古墳群	98-1	大字青谷1952-1、1950-1、1951	24,951.57	板上水平	土砂採取	石田	980212	980212	古墳群公布的調査を行い、遺構、遺物なし
田 道	98-1	國分町6丁目689-6	93.00	川中教史	個人住宅	安村	980215	980216	1.5×1.5mトレンチを設定したが、遺構、遺物なし
本 郡	98-1	本郷3丁目5丁目	84.00	山西敏一	公共下水道	北野	980225	980319	縄文時代から古墳時代の土器出土
大県南	98-1	大野3丁目572-1、572-3、573-1	1,367.76	板上水平	スルーマン	石田	980227	980227	遺構、遺物なし
田 道	98-2	出羽2丁目2065-5	113.35	堀田樹・万葉社	個人住宅	安村	980302	980302	1.5×1.5mのトレンチで須恵器鉢等出土
玉手山	98-1	旭ヶ丘1丁目446-10	269.15	田中宏明	個人住宅	安村	980309	980309	1×1.5トレンチで上部器出土
大 県	98-2	平野1丁目97-1、12-14	1,365.15	田中千子・希和	共同住宅	石田	980310	980310	遺構、遺物なし
本 郡	98-2	本郷2丁目881-4	121.35	青木康充	個人住宅	安村	980317	980317	1.5×1.5mトレンチで陶器瓦出土
玉手山	98-2	旭ヶ丘1-431-3、432-2、453-1、594-4	77.62	長尾産業	宅地造成	石田	980324	980324	遺構、遺物なし
田 道	98-3	國分町6丁目710	13,470.00	山西敏一	アール建設	安村	980325	980327	1×1.5m2ヶ所トレンチで瓦、土器跡、陶磁器出土
玉手山	98-3	玉手町115-39	179.35	田中正旗	個人住宅	安村	980327	980327	遺構、遺物なし
船 桐	98-1	吉市2丁目534-1、534-12、534-13	445.74	御瓦木	宅地造成	石田	980331	980331	遺構、遺物なし
田 道	98-4	出羽2丁目2161-9	211.17	伊元光昭	個人住宅	北野	980507	980507	本 喬 掘 裁
田 道	98-5	國分町6丁目708-3	168.75	文野和絵	個人住宅	北野	980508	980508	本 喬 掘 裁
大県南	98-2	大野4丁目190	316.41	成瀬博文	個人住宅	北野	980514	980514	本 喬 掘 裁
安 堂	98-1	安堂町658-4	465.00	江野美喜	施設者志望	石田	980519	980521	1.5×1.5m 2×25mトレンチで土器跡、須恵器出土
大 県	98-3	大野4丁目196-3、197	487.42	山田住庵	施設者志望	石田	980522	980522	遺構、遺物なし
本 郡	98-3	本郷4丁目253-3、253-4、254-4	1,065.05	専生住宅㈱	裏原団	石田	980601	980609	遺構、遺物なし
平尾山 古墳群	98-2	大字脛多尾塚1397	157.71	田中二郎	個人住宅	北野	980604	980604	本 喬 掘 裁
船 桐	98-1	古市3丁目500-3	252.64	河野久代	個人住宅	北野	980615	980615	本 喬 掘 裁
大県南 寺	98-1	大野4丁目616-1の一部	287.52	安田善重	分譲住宅	石田	980616	980616	2×2 mトレンチで上部器从属出土
田 道	98-6	國分町5丁目1396	156.20	西山精司	個人住宅	北野	980629	980701	本 喬 掘 裁
平野寺	98-1	平野2丁目583	1,127.71	大原 健	倉庫	石田	980709	980709	遺構遺物なし
大 県	98-4	平野2丁目171-1の一部	361.45	上田芳弘	共同住宅	石田	980713	980713	遺構遺物なし
田 道	98-7	國分町5丁目1572-1	393.70	谷口智紀	個人住宅	北野	980730	980730	遺構遺物なし
大 県	98-5	平野2丁目166-4	95.00	吉村晃明	個人住宅	北野	980806	980806	本 喬 掘 裁
平尾山 古墳群	98-3	時987	40.00	竹内清勝	通信用柱	石田	980807	980807	遺構遺物なし
田 道	98-8	國分町6丁目710	13,470.00	山西敏一	アール建設	安村	980819	980907	ピット土坑跡から土器等鉢など出土
山ノ井	98-1	山ノ井町698-1、698-2	391.41	森出 徹	個人住宅	石田	980825	980826	遺構遺物なし
玉手山	98-4	旭ヶ丘1-390-80	936.83	宇都宮古武屋	住宅	石田	980908	980910	遺構遺物なし
高井田 横穴群	98-1	大字高井田734、777	1,941.13	谷口一俊	共同住宅	石田	980911	980911	遺構遺物なし
玉手山	98-5	旭ヶ丘1丁目508-1、508-6、8の一部	498.83	御アクリティ	個人住宅	石田	980924	980924	遺構遺物なし
平野	98-1	法善寺4丁目	134.75	西村一克	個人住宅	北野	980930	980930	遺構遺物なし
大 県	98-6	平野2丁目264-19、264-20	161.76	林 直壽子	個人住宅	北野	981009	981009	本 喬 掘 裁
大 県	98-7	平野2丁目369-3他	1,461.00	大橋治家	宅地造成	石田	981107	981109	古墳2基 調査
平尾山 古墳群	98-4	大字屢多尾塚6340-601	16,878.00	関西電力	販塔建設	石田	981207	981211	遺構遺物なし

第1章 船橋廃寺

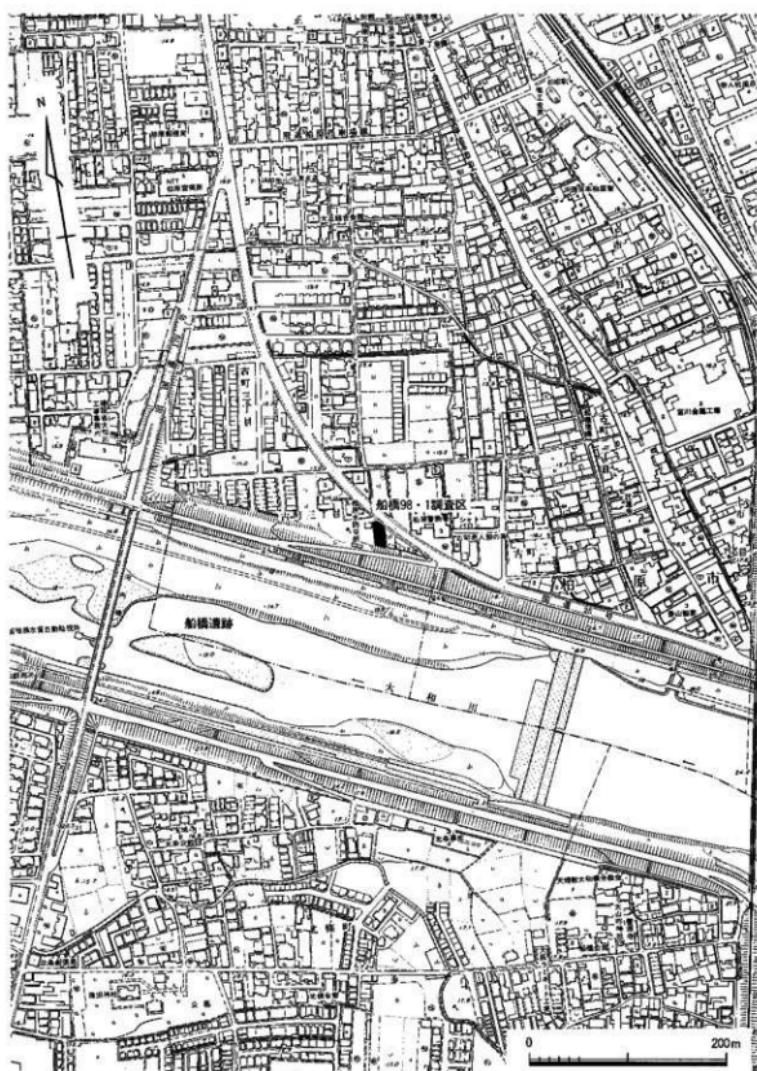


図-1 船橋廃寺調査対象位置図

98-1次調査

- ・調査対象地 柏原市古町3丁目500-3
- ・調査期間 1998年6月16日
- ・調査面積 2.2m²/252.64m²
- ・調査担当者 北野 重

調査地は、大和川の堤防の直ぐ北側の国道25号線沿いの個人住宅建て替えに伴い、道路沿いの場所にトレンチを設定した。トレンチは、1.5m×1.5mの規模である。深さ1.3mまで掘削し、方形ピットを1個検出した。0.3m幅に円形柱穴を持つ。下層はまだ遺物包含層が続くが、この遺構面で止めた。土層断面は、9層からなり、1~4層までが盛土と表土である。5層は、青灰色粘質土で耕作土であろう。遺物は細片の土器類が出土した。6層は、黄灰茶色粘質土で奈良時代から古墳時代後期の遺物包含層である。8、9層は古墳時代以前の土層である。墨書き土器と平瓦は6層から出土した。

出土遺物

今回出土した遺物は、墨書き土器1点と平瓦1点である。1の墨書き土器は、底部の破片のみが出土し、外面に「田井」と書かれている。内外面共になで調整され、高台径は7.0cmを測る。2は平瓦小片で、凹面は布目痕、凸面に繩目痕がみられる。

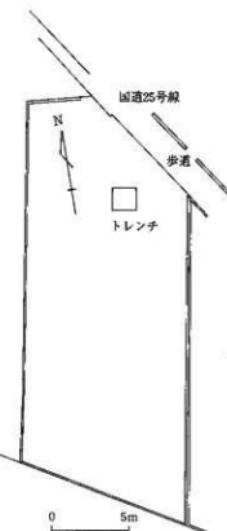


図-2 船橋廃寺98-1次調査調査区位置図

1. 盛土
2. 黒茶色砂土
3. 黒灰砂土
4. 黑灰茶色粘質土
5. 青灰色粘質土
6. 黄灰茶色粘質土
7. 黑灰茶色粘質土
8. 灰褐色粘質土
9. 青灰色砂土

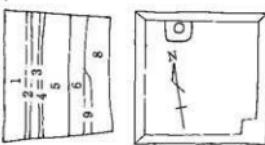


図-3 船橋廃寺98-1次調査
平面図・断面図

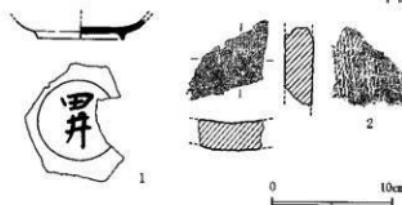


図-4 船橋廃寺98-1次調査調査出土遺物

第2章 大県遺跡

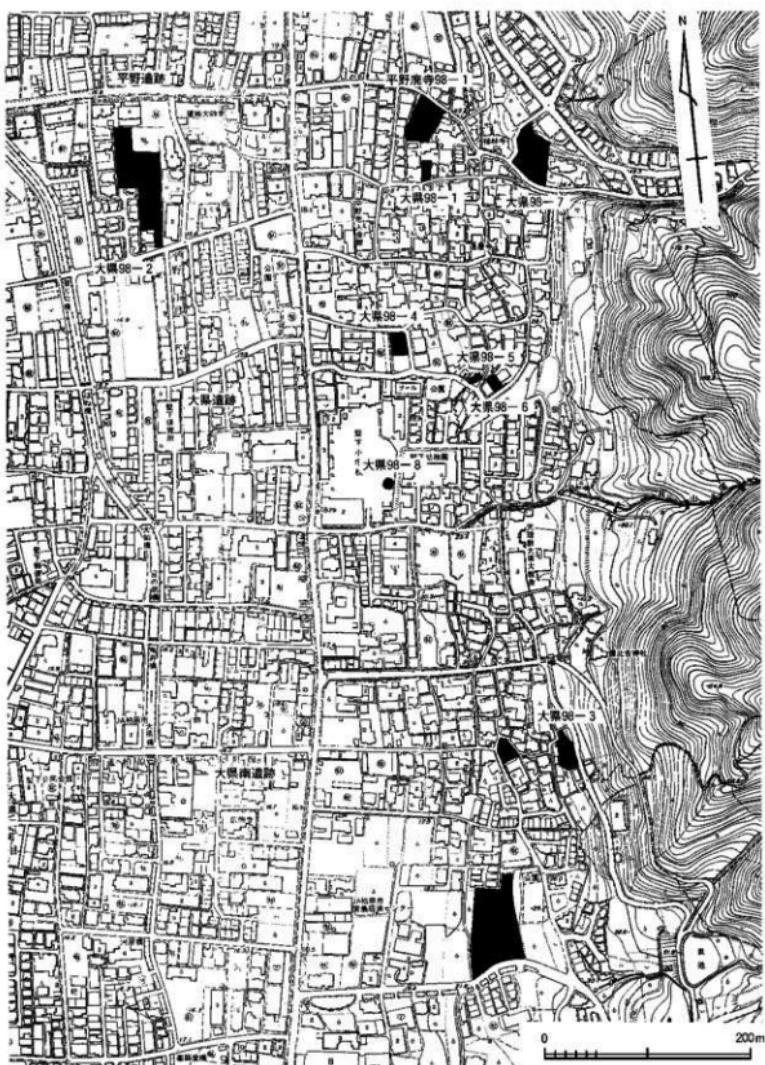


図-5 大県遺跡調査対象地位置図

98-1次調査

- ・調査対象地 柏原市平野2丁目15-26の一部
- ・調査期間 1998年1月19日
- ・調査面積 $2.0\text{m}^2 / 103.92\text{m}^2$
- ・調査担当者 北野 重

当該地は、大県遺跡の中心部にあたり近隣の既調査で縄文時代早期の土器が出土する地域で、西側に緩傾斜する場所で安定した台地上方の地点である。南北に長い調査区で東側が高く西側に低くなってしまっており、隣家との段差が1m以上ある。東側を掘削して西側に盛土を施し造成して平坦地にしている。北側へ約100mほどに谷川水系の小河川が東西方向に向き流れている。当地区での出土土器類は縄文土器、弥生土器、古墳時代や奈良時代の土師器、須恵器が出上している。

調査は、道路から約3m離れた場所に幅1m、長さ2mのトレンチを設定し、深さ0.6mまで掘削した。土層は、第1層、表土、第2層、盛土である。第3層、茶灰色砂質土である。第3層から古墳時代の土師器、須恵器の破片が出土した。又、土層内から15~20cm大の花崗岩の自然石が含まれている。縄文時代から弥生時代の包含層は同様の土層で更に1~2mの掘削が必要である。

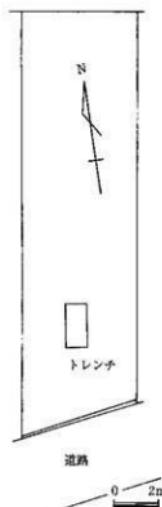


図-6 大県遺跡98-1次調査調査区位置図

1. 表土
2. 盛土
3. 茶灰色砂質土

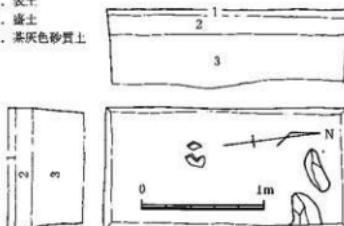


図-7 大県遺跡98-1次調査平面図・断面図

98-5次調査

- ・調査対象地 柏原市平野2丁目166-4
- ・調査期間 1998年8月6日
- ・調査面積 $1.4\text{m}^2 / 96.0\text{m}^2$
- ・調査担当者 北野 重

当該地は、大県遺跡の中央部で丘陵部中程の安定した台地で、やや南傾している台地の下部にある。字名は大南口で北側に垣地、南側に小池がある。垣地の場所は標高が高い安定した台地の上であり、南側の小池にあたる場所はやや低地である。小池の86-6次調査区で住居関連の遺構や木製の井戸内から「井門家」の土器片が出土している。

調査区は、南側に幅 $1.2\text{m} \times 1.2\text{m}$ のトレンチを設定し、深さ 0.7m まで掘削した。土層は、第1層、茶灰色砂質土、第2層、灰白色粘質土、第3層、茶褐色粘質土、第4層、黄灰色粘質土でこの土層より下層は古墳時代の遺物包含層であるが、湧水が激しく下層の掘削は止めた。第5層は茶褐色粘質土で非常に多くの砂礫が含まれている。遺構と遺物が出土しなかった。工事は現在の地盤より盛土を施し実施するとのことでこれまでに留めた。



図-8 大県遺跡98-5次調査調査区位置図

1. 灰灰色砂質土
2. 灰白色粘質土
3. 茶褐色粘質土
4. 黄灰色粘質土
5. 茶褐色粘質土

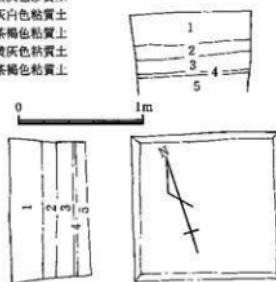


図-9 大県遺跡98-5次調査平面図・断面図

98-6次調査

- ・調査対象地 柏原市平野2丁目246-
- 19、20
- ・調査期間 1998年10月9日
- ・調査面積 3.0m²/161.76m²
- ・調査担当者 北野 重

当該地は、大県遺跡の中央部にあたり丘陵部よりの場所である。東側に高く西側へやや傾く斜面地である。この地域には傾斜地をテラス状に造成して住居を建てる事例が多い。調査は、既存の建物を撤去した後両側道路沿いに1.2m×2.5mのトレンチを設定した。

当地は東側を掘削して西側へ盛土を施し平坦にしている場所であるので南側が浅く、北側へ深くなっていることが考えられた。掘削は約1.5mまで行った。第1層、盛土で真砂土で南側で0.5m、北側で1.2mを測った。第2層も後世に入れた盛土で第1層と同様南側から北側へ急に傾く斜面地になっていることが確認された。第3層は、灰色粘質土で厚さ0.3mを確認した。更に掘削が可能であるが、建物基礎が浅く土層の厚さと下層の状況を確認するに留めた。

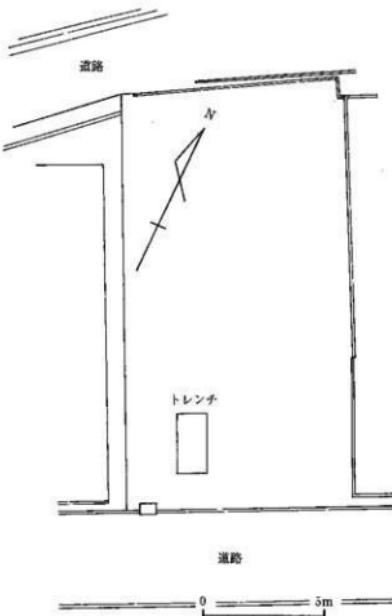


図-10 大県遺跡98-6次調査調査区位置図

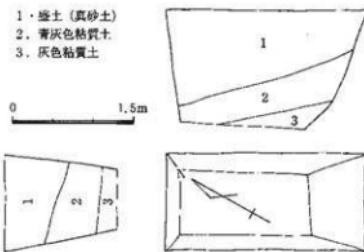


図-11 大県遺跡98-6次調査平面図・断面図

第3章 大県南遺跡



図-12 大県南遺跡調査対象地位置図

98-2次調査

- ・調査対象地 柏原市大県4丁目190
- ・調査期間 1998年5月14日
- ・調査面積 $2.3\text{m}^2 / 316.41\text{m}^2$
- ・調査担当者 北野 重

調査区は、北東側に $1.5\text{m} \times 1.5\text{m}$ のトレンチを設定した。

第1層は、盛土で第2層は新しい時期の掘削土坑である。第3層は灰褐色砂質土で古墳時代から奈良時代にかけての遺物包含層である。第4層は茶灰色砂質土で遺物が含まれていない土層である。遺物は第3層の灰褐色砂質土から出土した。

今回出土した遺物は、土師器3点、須恵器1点、輪羽口1点、鉄滓4点である。1～3は土師器杯で、2と3は、口縁部を横になで、体部外面をへら磨き、内面は放射線状暗文を施している。4は、須恵器杯蓋である。口縁部付近は欠損しており、天井部外面を回転へら削り、内面をなで、図-13 大県南遺跡98-2次調査平面図・断面図その他なで調整を施す。5は、輪羽口の小片である。

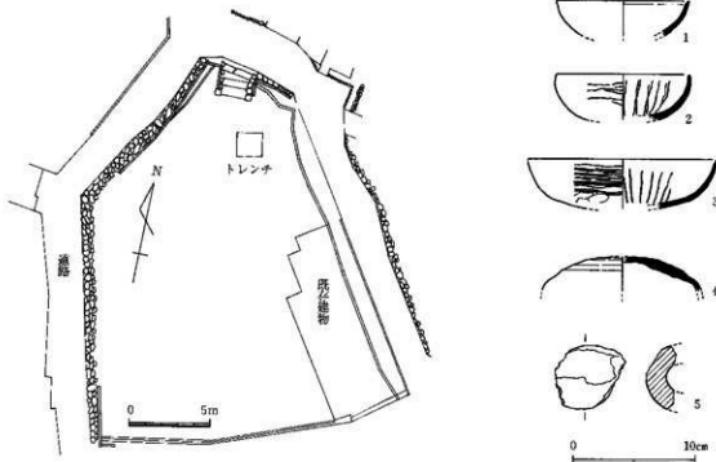
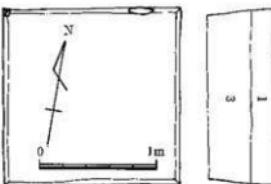


図-14 大県南遺跡98-2次調査出土土器・調査区位圖

第4章 平尾山古墳群



図-15 平尾山古墳群調査対象地位置図

98-2次調査

- ・調査対象地 柏原市雁多尾畠1397
- ・調査期間 1998年6月4日
- ・調査面積 1.6m² / 257.71m²
- ・調査担当者 北野 重

当該地は、平尾山古墳群の範囲内に入るが、古墳の存在はなく集落に関わる遺跡や墳墓又は古代寺院の遺構や遺物を確認するために調査を実施したものである。当地は、南東側丘陵上部に平安時代創建の光徳寺があり、周辺部にその伽藍が存在していたことが記録されている。当寺院は永延二年（988）円融天皇勅願によって延暦寺の僧法円が建立した寺院で、その主体は、規模や範囲は不明であり、現在の寺院のある丘陵以外の周辺尾根上にも堂宇が建ち並んでいたことが考えられ、丘陵上の平坦地や谷筋部の平坦地にもその実態を確認する必要がある。

調査区内の南西側に1×2mの規模のトレンチを設定した。深さは、1.2mまで掘削した。第1、2層は新しい時期の土層で盛土と表土である。第3層は、黒灰褐色シルトで厚さ0.3mを測る。第4層は、茶灰色シルトである。第5層は、黄茶色粘質土で炭の混入がある。第6層は、茶灰色粘質シルトで花崗岩の破片が含まれている。遺構と遺物は確認されなかったが、第5、6層が光徳寺に関わる時期の土層の可能性がある。

1. 地上
2. 赤茶色砂質土
3. 黒灰褐色シルト
4. 黑灰色シルト
5. 黄茶色粘質土
6. 茶灰色粘質シルト

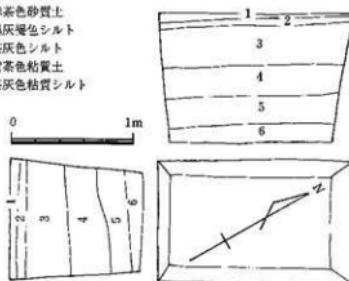


図-16 平尾山古墳群98-2次調査調査区位置図

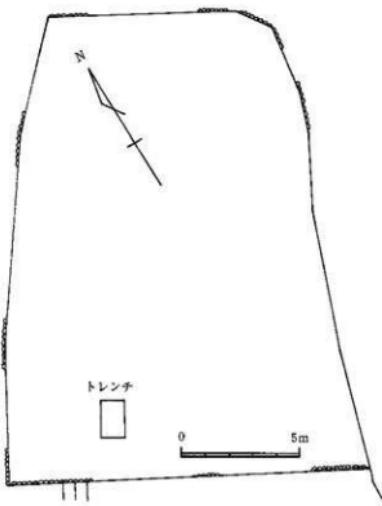


図-17 平尾山古墳群98-2次調査平面図・断面図

第5章 田辺遺跡



図-18 田辺遺跡調査対象地位置図

98-4次調査

- ・調査対象地 柏原市田辺2丁目2161-9
- ・調査期間 1998年5月7日
- ・調査面積 $2.0\text{m}^2 / 215.17\text{m}^2$
- ・調査担当者 北野 重

当該地は、田辺遺跡の南側にあたり東西方向の痩せた尾根筋の南側斜面地にある。当丘陵の先端部下方には奈良時代創建の田辺廃寺があり、谷を隔てて北側へ約100mには田辺古墳群と古墓群が築造されている丘陵部がある。更に北側の平坦な丘陵部には住居関連遺構と大規模な金属生産工房の遺構が発見されている。

調査区は、既に宅地造成が行われて建て替えが行われているが、古墳など墳墓が存在する可能性があることから調査を実施した。北側の尾根筋に近い場所へ $1 \times 2\text{ m}$ のトレンチを設定した。北側が標高が高く南へ下る急斜面である。土層は、第1層、盛土で、第2層淡灰黄色粘質土である。この土層からガラスの溶解炉壁が出土した。調査前の建物に伴う近代の遺品である。第3層は、黄褐色粘質土である。遺構と遺物がなく宅地造成時に削平を受けているのか存在しないのか今後の検証が必要な地域である。

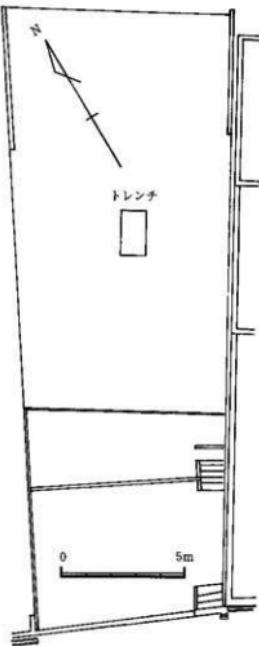
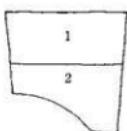


図-19 田辺遺跡98-4次調査調査区位置図



1. 盛土
2. 淡灰黄色粘質土
3. 黄褐色粘質土

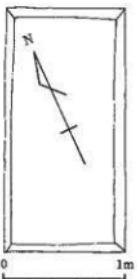


図-20 田辺遺跡98-4次調査平面図・断面図

98-5次調査

- ・調査対象地 柏原市国分本町6丁目703-3
- ・調査期間 1998年5月8日
- ・調査面積 4.0m²/108.73m²
- ・調査担当者 北野 重

当該地は、田辺遺跡の北側丘陵内にあたり住居跡や鍛冶工房跡の遺構が検出される地区である。同一丘陵には北東方向に松岳山古墳、南側には田辺廃寺や田辺古墳群が続いている。調査区の立地は東側へわずかに標高が高くなり、西側に緩く傾く台地である。当地の西側斜面中腹部の谷筋部や台地上に金属生産工房が多く見つかっている。

調査は、東側中央部に2m×2mのトレンチを設定した。掘削を始めるとすぐ灰褐色粘質土があり、地山によく似た土層で後世の擾乱を受けた土層である。南東端部に隅丸方形の土坑の一部を検出した。深さ約1mを測り、さらに東側や南側へ続いている。土層の断面を観察すると、第1層、淡黄灰褐色粘質土、第2層は、黄白色砂質土、第3層薄茶灰褐色粘質土である。第1層が厚く約0.6mあり、第2層、10数cm、第3層約0.3mを測る。底部は平底である。第3層には20~30cm大の石が多く入っていた。時期やどのような性格の土坑か不明である。

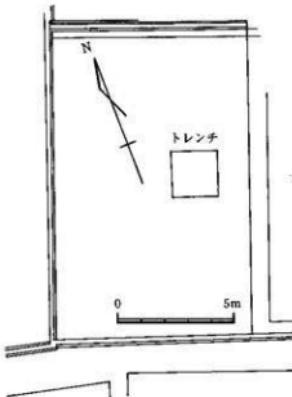


図-21 田辺遺跡98-5次調査調査区位置図

- 1. 淡黄灰褐色粘質土
- 2. 黄白色砂質土
- 3. 薄茶灰褐色粘質土
- 4. 灰褐色粘質土

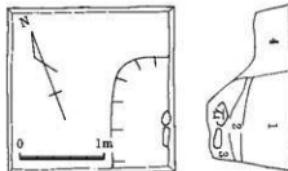


図-22 田辺遺跡98-5次調査平面図・断面図

98-6次調査

- ・調査対象地 柏原市国分本町5丁目1596
- ・調査期間 1998年6月29日
- ・調査面積 $5.0\text{m}^2 / 156.20\text{m}^2$
- ・調査担当者 北野 重

当該地は、出辺遺跡の北側丘陵部端部の平坦地である。北東方向に松岳山古墳があり、当丘陵部の調査例で埴輪の破片が散見されていることから、同古墳築造以降の中期から後期にかけてこの丘陵部上に幾つかの古墳が築造された可能性がある。その後、住居や金属関係の工房が多数造られるようになり、古墳を人為的に削平したのであろう。この地域は、古來より文物の移動が諸外国や浪速地域から奈良地域へと大和川の水運とその縁辺の街道によって行われ、人の行き来や文化の交流が激しい地区であった。

調査は、西側にある道路が谷筋となり全体が西側へ傾いていることから東側中央部に $2.0\text{m} \times 2.5\text{m}$ のトレンチを入れた。旧家屋が撤去された後全体に整地されており一部削平もあった。上層を除去後大きな溝と搅乱土坑を検出した。土坑には瓦が多数埋めて在り、以前の建物の廃棄した遺物を埋めた土坑である。溝は、南西方向から北東方向に伸びており北側から北東方向へ緩く曲がって大きな円弧を描くようである。規模は、南側で幅1.0m、北側で1.5m以上である。深さは、0.25~0.3mで溝底部は円弧状で東側へ緩く傾斜して西側へはより急な傾きを持っている。土層は、上層から第1層、茶灰色粘質土は、搅乱土層であるが元の土層がそのまま埋没しているようである。第2層は、茶灰色粘質土で厚さ0.15~0.2mでトレンチ全体に覆っている。この土層の下層から溝が検出された。溝の埋土は、主に3層からなり、南北の断面で少し違いがある。南側の土層は、第1層が茶灰色砂礫土で厚さ10cm足らずで溝の中央部に見られた。第2層の黄灰色粘質土は溝の稼働時期に埋没した土層で出土土器はこの土層からほとんどが出土している。第3層の黄褐色粘質土は東側から流れ落ちた土層で西側には見られない。遺物は、須恵器、土師器、埴輪、鉄滓などコンテナ5箱が出土した。

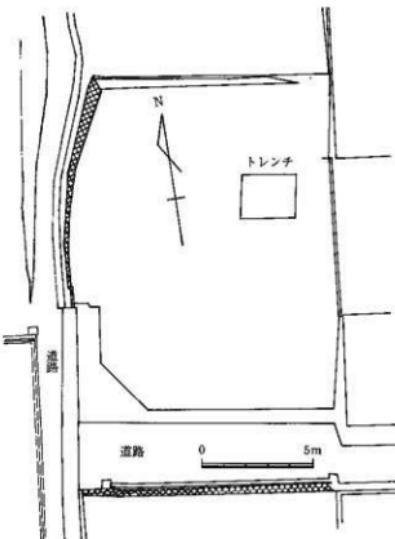


図-23 出辺遺跡98-6次調査調査区位置図

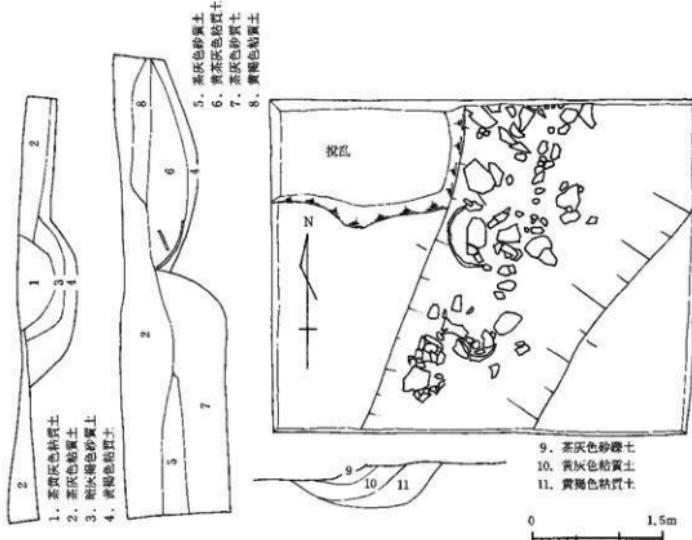


図-24 田辺遺跡98-6次調査平面図・断面図

出土遺物

今回出土した土師器、須恵器、埴輪等のうち形状のわかる遺物について、若干の説明を加えたい。1と2は、土師器杯である。口径11.5~12.0cm、器高4.5cmを測り、丸みをおびた底部より内弯気味に口縁部へ至り、口縁端部は外上方を向く。2は、内面に放射線状暗文がみられる。3、4は土師器壺である。3は、口径13.8cmを測る。肩部から口縁部にかけて外弯し、口縁端部は丸い。4は、口径15.7cm。なだらかな肩部からやや大きく外反する口縁部へと至り、さらに口縁端部で外方向をむく。5と6は、土師器高杯である。いずれも脚部外面を面取り後、丁寧になでつけているが、内面は絞り目がのこり、裾部端部には指圧痕がみられる。形態は共に裾が大きく広がる脚部である。7は、土師器大形の碗。口径28.8cm。体部から口縁部にかけて丸味をおびながら上方をむく。口縁端部は段をなし、内側に向ってやや凹む。口縁内外面共に横になで、体部外面をへら磨き、内面は、2段の放射線状暗文がみられる。8は、土師器把手付甕。口径31.2cm。体部は丸味をもちながら肩部へ至り、「く」の字形に外上方に大きく曲り口縁部へとつづく。体部中位に相対する2個の大きな角状把手がつく。9は、衣笠形埴輪の笠の一部分と思われる。10~14は、須恵器。10は、杯蓋の蓋。口径10.0cm、器高3.5cmを測る。天井部から口縁部にかけてなだらかなカーブを描き、口縁端部は丸い。天井部は未調整でその他は回転なで調整。天井部外面にへら記号がみられる。11と12は、壺。11は、脚部に3方向の透かしがみられる。いずれも内外面共に回転なで調整。13と14は壺である。13は、口径19.3cm。器高39.0cmを測る。外面体部下部位に4条の沈線が巡り、平行叩きの後、カキ目調整。内面は同心円叩きが施されている。

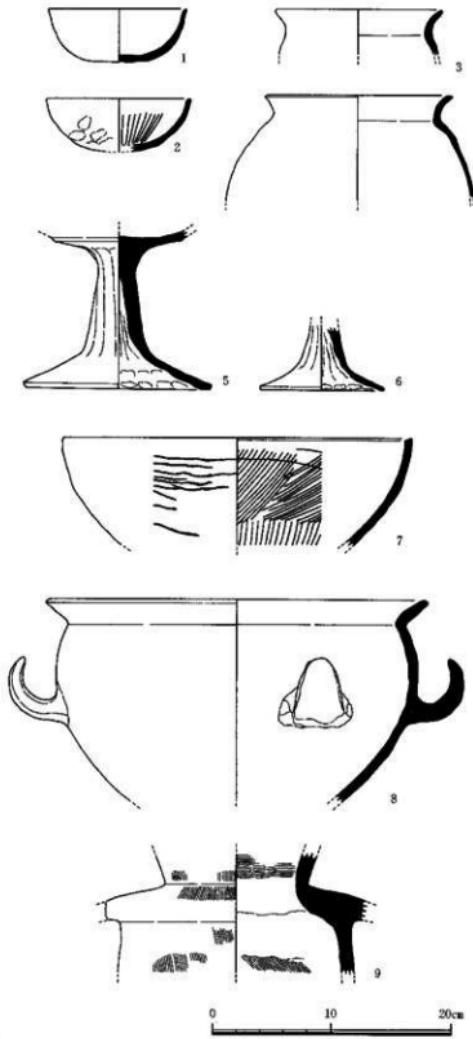


図-25 田辺遺跡98-6次調査出土遺物

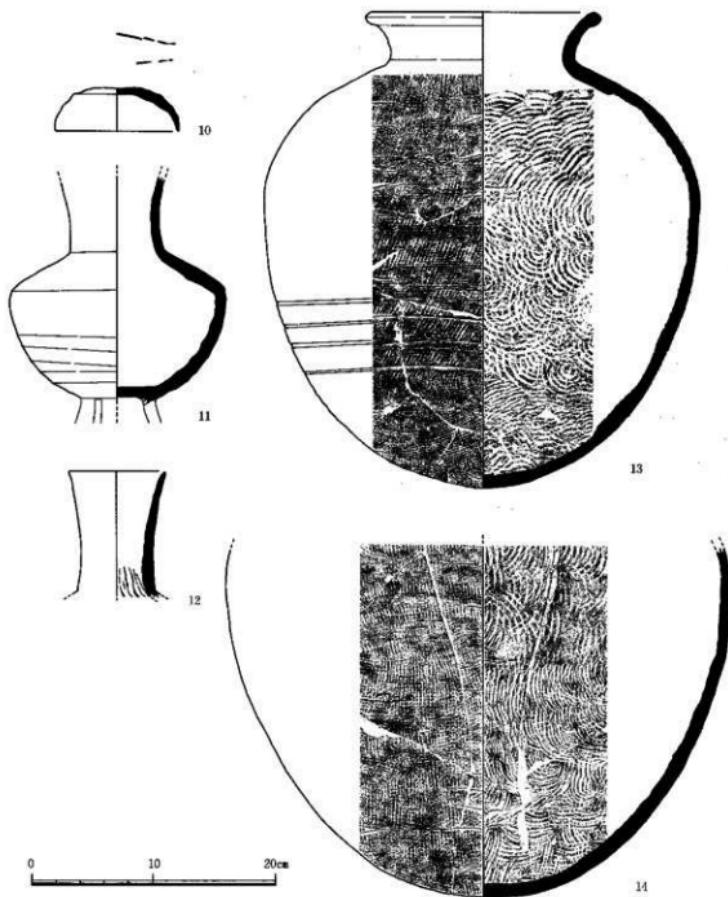
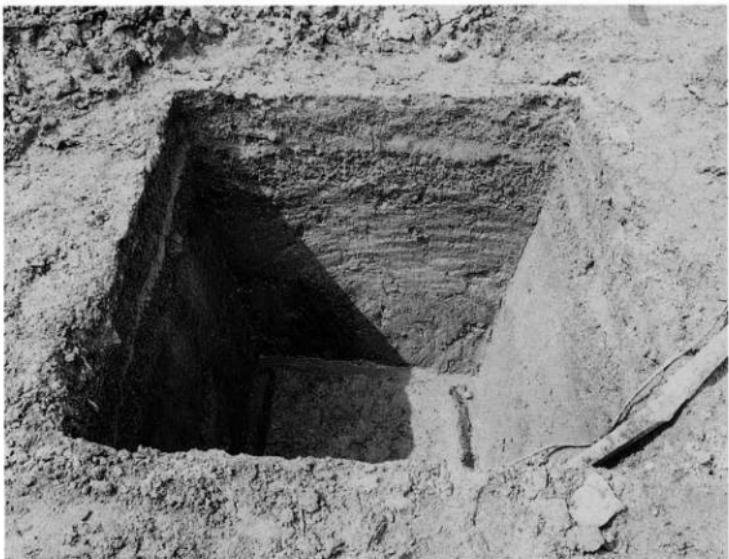


図-26 田辺遺跡98-6次調査出土遺物

図 版

圖版一 船橋遺跡 98—1 次調查

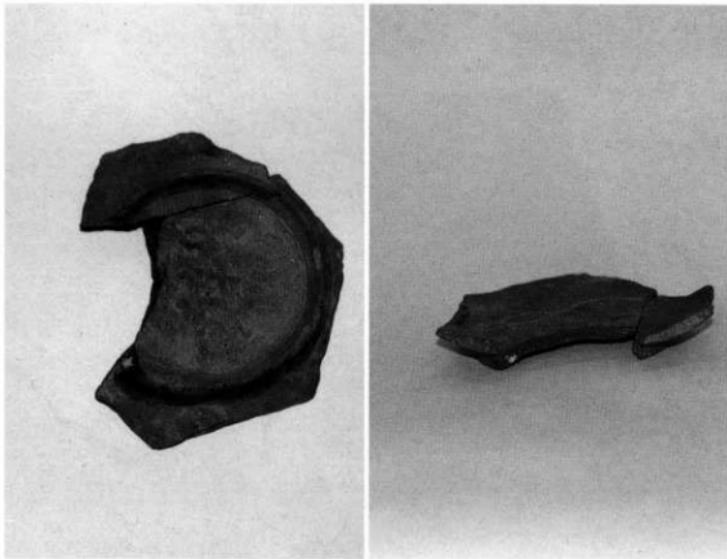


全景

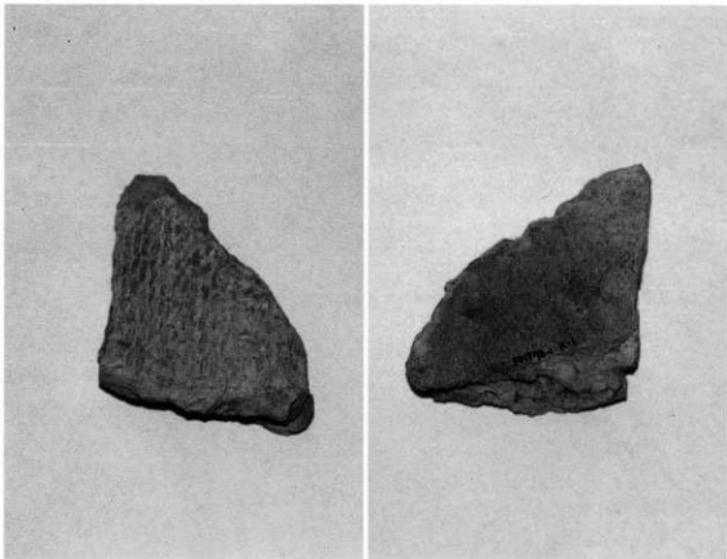


土層断面

図版二
船橋廢寺98—1次調査

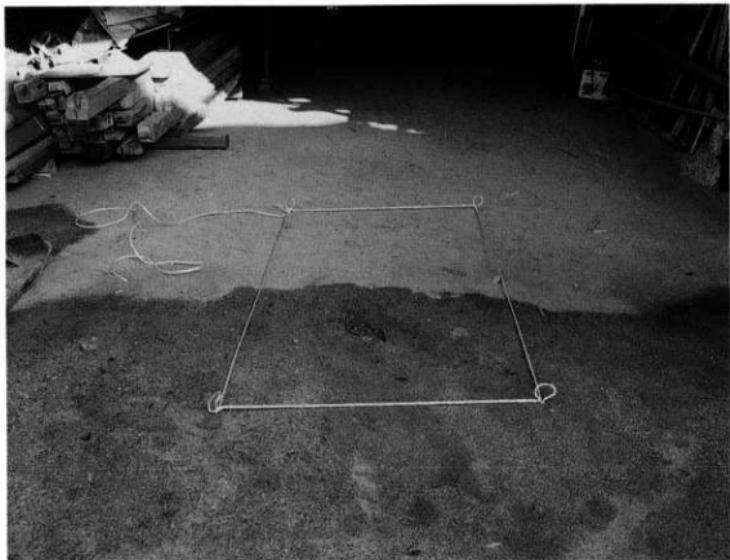


墨書き土器

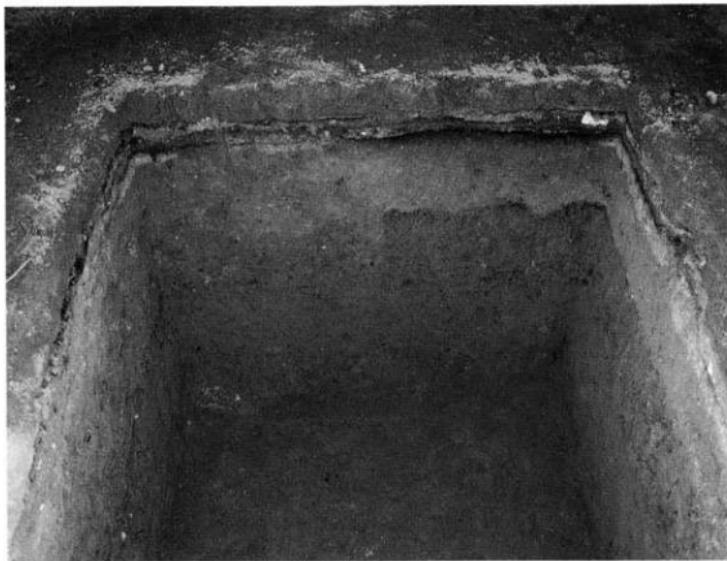


平瓦

図版三 大県遺跡98—1次調査



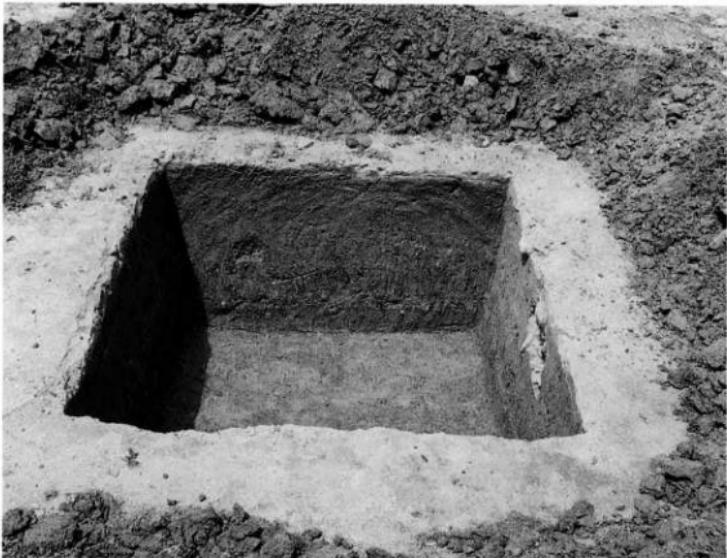
調査前



土層断面

圖版四

大県遺跡98—5次調査



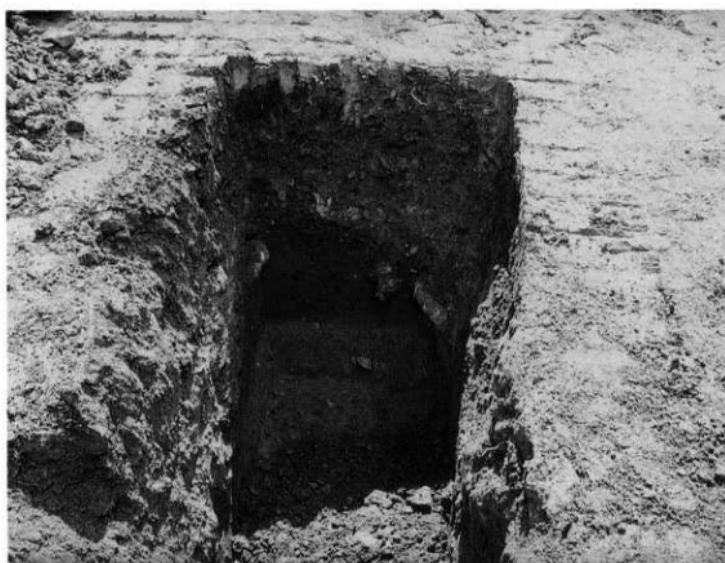
全景



全景



全景



全景

圖版六
大県南遺跡98—2次調査



全景



全景

図版七 平尾山古墳群98—2次調査



全景



土層断面

図版八 田辺遺跡98—4次調査



全景



土層断面

図版九
田辺遺跡98—4次調査



ガラス溶解炉壁



ガラス滓

図版一〇 田辺遺跡98—5次調査



全景

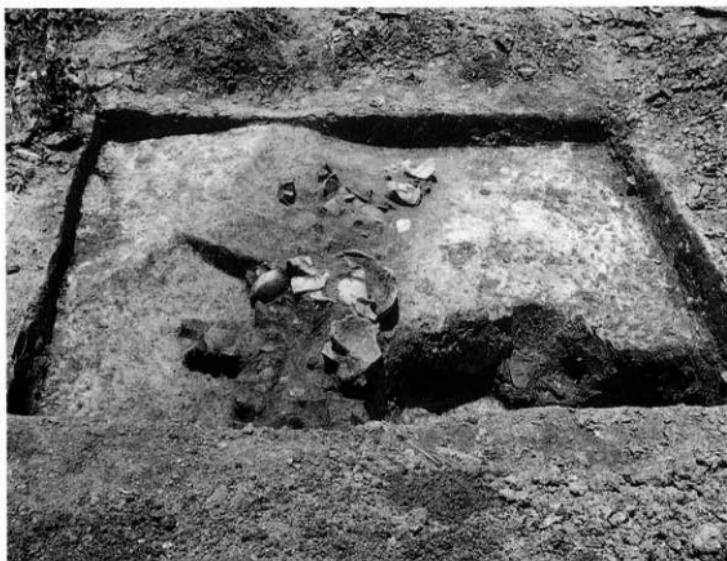


土層断面

圖版一一
田辺遺跡98—6次調査



全景

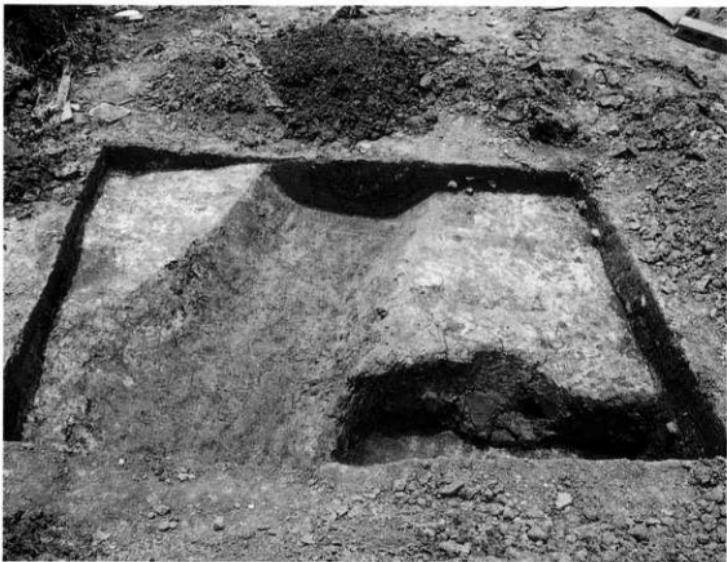


全景

圖版一二 田辺遺跡98—6次調査

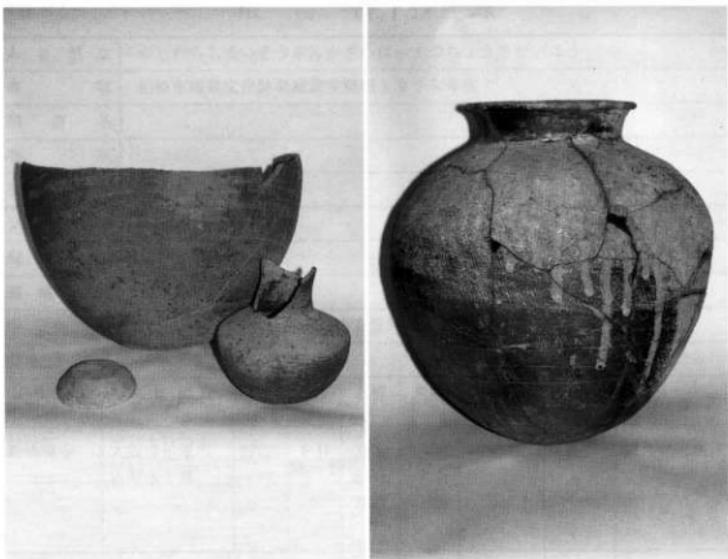


遺物出土状況



溝完掘全景

図版一三一 田辺遺跡98—6次調査



須恵器



土師器

報告書抄録

ふりがな	かしわらしまいぞうぶんかざいはつくつちょうさがいほう						
書名	柏原市埋蔵文化財発掘調査概報 1998年度						
副書名							
卷次							
シリーズ名	柏原市文化財概報						
シリーズ番号	1998-I						
編著者名	北野重						
編集機関	柏原市教育委員会						
所在地	〒582-8555 大阪府柏原市安堂町1番43号 TEL 0729-72-1501						
発行年月日	1999年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ード 市町村 通路番号	北緯 度 分 秒	東経 度 分 秒	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
船橋魔寺	大阪府柏原市 古町3丁目	27221 98-1	F H 34度 34分 28秒	135度 37分 13秒	19980615	2.2	個人住宅建設
大県遺跡	平野2丁目	27221 98-1	O G 34度 35分 26秒	135度 38分 8秒	09980119	2.0	個人住宅建設
大県遺跡	平野2丁目	27221 98-5	O G 34度 35分 20秒	135度 38分 10秒	19980806	1.4	個人住宅建設
大県遺跡	平野2丁目	27221 98-6	O G 34度 35分 20秒	135度 38分 11秒	19981009	3.0	個人住宅建設
大県南遺跡	大県4丁目	27221 98-2	O G M 34度 35分 9秒	135度 38分 10秒	19980514	2.3	個人住宅建設
平尾山古墳群	新多尾畠	27221 98-2	H Y K 34度 33分 55秒	135度 38分 10秒	19980604	1.6	個人住宅建設

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド 市町村:道跡番号	北 緯	東 經	調査期間	調査面積 m ²	調査原 因
田辺遺跡	田辺 2丁目	27221 98-4	34度 33分 23秒	135度 38分 59秒	19980507	2.0	個人住宅建設
田辺遺跡	国分本町 6丁目	27221 98-5	34度 33分 45秒	135度 38分 39秒	19980508	4.0	個人住宅建設
田辺遺跡	国分本町 6丁目	27221 98-6	34度 33分 56秒	135度 33分 56秒	19980620 ~ 19980701	5.0	個人住宅建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な 遺 構	主な 遺 物	特 記 事 項		
船橋廃寺	寺院跡	飛鳥時代	ピット	土師器、平瓦	墨書き器		
大県遺跡	集 落	古墳時代	なし	土師器、須恵器			
大県南遺跡	集 落	古墳時代	なし	土師器、須恵器、 鉄滓			
平尾山古墳群	古墳群	不 明	なし	なし			
田辺遺跡	集 落	古墳時代	溝	土師器、須恵器、 埴輪、鉄滓			

柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

1998年度

編集・発行 柏原市教育委員会

〒582-8555 大阪府柏原市安堂町1番43号

電話 (0729)72-1501内線5133

発行年月日 平成11年3月31日

印 刷 徳近畿印刷センター

